

(問い合わせ先)

〒514-8570 三重県津市広明町13番地

三重県戦略企画部戦略企画総務課

(担当): 佐波、藤田

059-224-2062 fax059-224-2069

e-mail: sensomu@pref.mie.jp

第2回みえ県民意識調査の結果概要 ~ 県民の皆さんの幸福実感を調査しました ~

県では、平成24年度に策定した「みえ県民力ビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に毎年「みえ県民意識調査」を実施しています。

今回、平成25年1月から2月にかけて実施した「第2回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

記

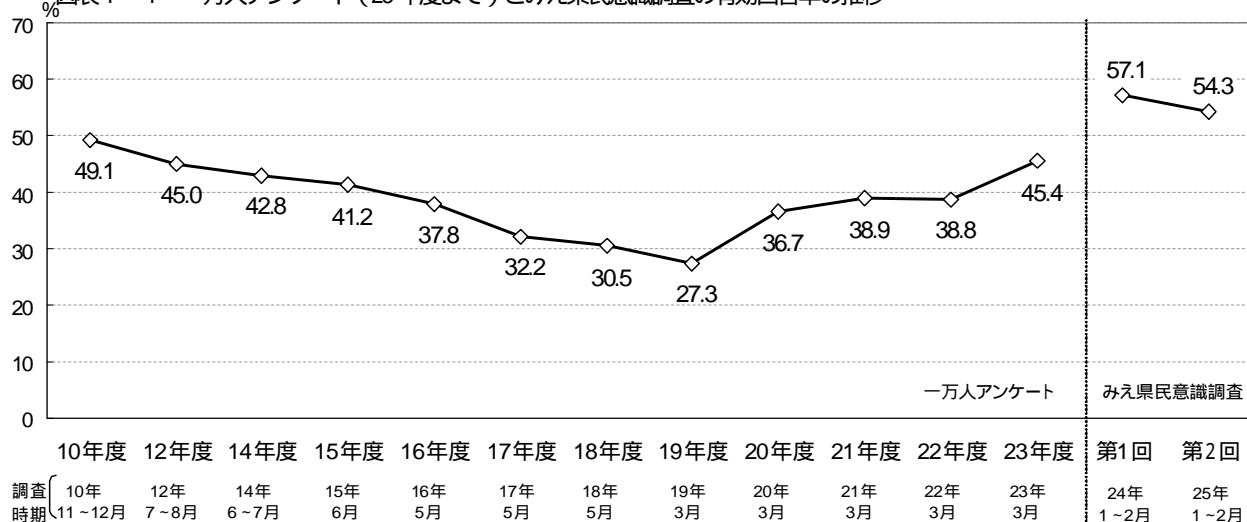
1 調査の概要

(1) 調査期間 平成25年1月～平成25年2月

(2) 調査方法 県内に居住する20歳以上の男女10,000人に対する郵送アンケート

(3) 有効回答数 5,432人(有効回答率 54.3%)

図表1-1 一万人アンケート(23年度まで)とみえ県民意識調査の有効回答率の推移



#### (4) 回答者の属性

図表1-2 回答者の属性

属性	属性項目	サンプル数(件数)	構成比(%)	対前回差(ポイント)
地域	北勢地域	2,394	44.1	(0.1)
	伊賀地域	557	10.3	(0.9)
	中南勢地域	1,516	27.9	(-0.7)
	伊勢志摩地域	751	13.8	(-0.2)
	東紀州地域	214	3.9	(0.0)
性別	男性	2,441	44.9	(-1.9)
	女性	2,869	52.8	(1.5)
	不明(未回答等)	122	2.2	(0.4)
年代	20歳代	321	5.9	(-0.7)
	30歳代	666	12.3	(-0.8)
	40歳代	864	15.9	(0.8)
	50歳代	937	17.2	(-0.3)
	60歳代	1,291	23.8	(-0.8)
	70歳以上	1,254	23.1	(1.8)
	不明(未回答等)	99	1.8	(0.1)
主な職業	農林水産業	175	3.2	(-0.5)
	自営業 自由業	524	9.6	(-1.3)
	正規職員	1,358	25.0	(-1.2)
	パート・アルバイト・派遣	972	17.9	(0.4)
	その他の職業	205	3.8	(1.1)
	学生	68	1.3	(0.0)
	専業主婦・主夫	742	13.7	(0.1)
	無職	1,237	22.8	(1.0)
	不明(未回答等)	151	2.8	(0.5)
	結婚	未婚	635	11.7
既婚		3,932	72.4	(-1.9)
離婚・死別		509	9.4	(-1.2)
不明(未回答等)		356	6.6	(4.1)
世帯構成	単身世帯	414	7.6	(0.2)
	一世代世帯	1,473	27.1	(-2.7)
	二世帯世帯	2,376	43.7	(-1.4)
	三世帯世帯	731	13.5	(-0.7)
	その他	305	5.6	(4.2)
	不明(未回答等)	133	2.4	(0.3)
本人の年間収入	100万円未満	1,509	27.8	-
	100～200万円未満	1,034	19.0	-
	200～300万円未満	803	14.8	-
	300～400万円未満	514	9.5	-
	400～500万円未満	376	6.9	-
	500～600万円未満	264	4.9	-
	600～800万円未満	319	5.9	-
	800～1,000万円未満	122	2.2	-
	1,000万円以上	80	1.5	-
	わからない	179	3.3	-
	不明(未回答等)	232	4.3	-
	有効回答数		5,432	100.0

本人の年間収入について、前回調査では世帯全体の年間収入を質問していることから、前回調査との比較はできません。

#### (5) 調査項目

第1回から継続：「幸福感」、「地域や社会の状況についての実感」

今回新たに設定：「家族や精神的なゆとり」、「地域や社会への参画」、「家計や仕事のこと」

## 2 幸福感について

報告書 4～9頁

### (1) 日ごろ感じている幸福感

現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

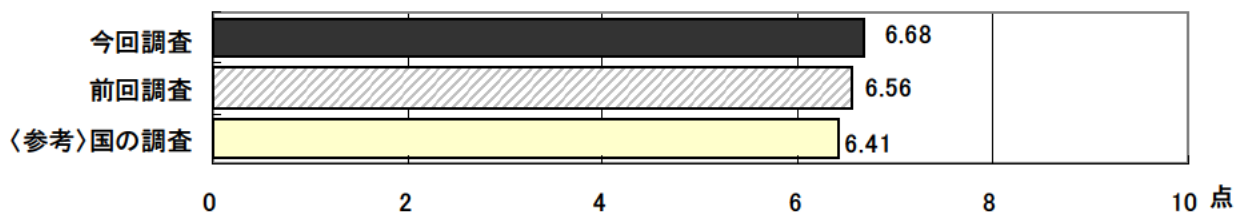
※継続(第1回調査においても質問しています)

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について、10点満点で質問したところ、平均値は6.68点で、前回調査と比較すると0.12点高くなっています。

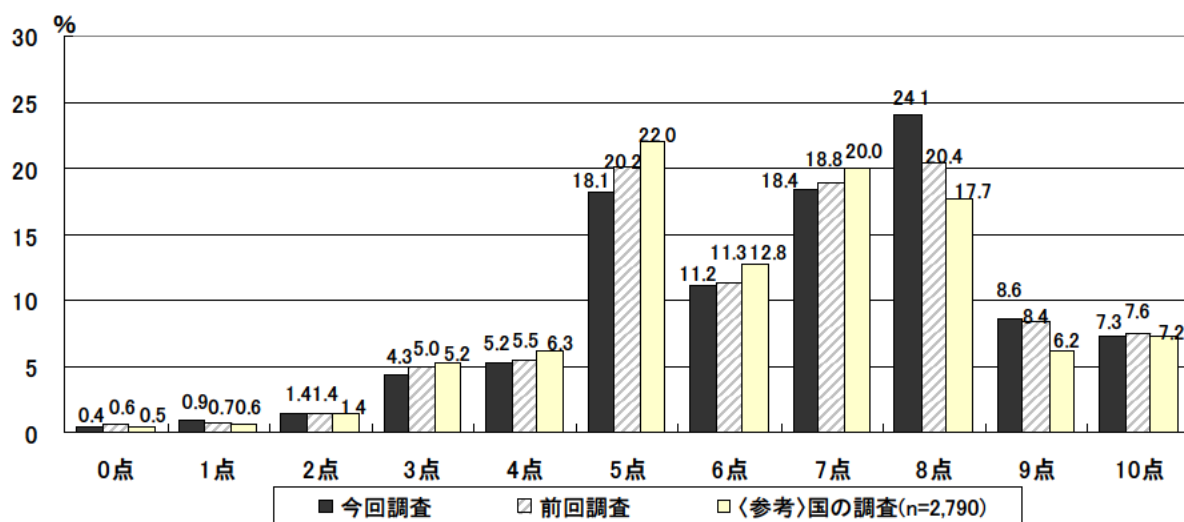
点数の分布をみると、「8点」が24.1%と最も高く、次いで「7点」(18.4%)、「5点」(18.1%)となっており、M字曲線を描いています。前回調査の分布と比較すると「8点」の割合が3.7ポイント高くなっています。

なお、平成24年3月に内閣府が実施した平成23年度国民生活選好度調査（以下、「国の調査」と記載）では、平均値は6.41点となっています。また、点数の分布をみると、「5点」が22.0%と最も高く、次いで「7点」(20.0%)、「8点」(17.7%)となっています。

図表2-1 日ごろ感じている幸福感の平均値



図表2-2 日ごろ感じている幸福感の分布



※「国民生活選好度調査」は、15歳以上80歳未満を対象としていることや、調査員が調査票を配布、回収する個別訪問留置法であることなど、本県の調査方法と異なる点があり、注意が必要です。

※国の調査・・・平成23年度国民生活選好度調査（内閣府、平成24年3月実施）

※「n」・・・設問におけるサンプル数（＝有効回答数）を表しています。（以下、同じです）

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

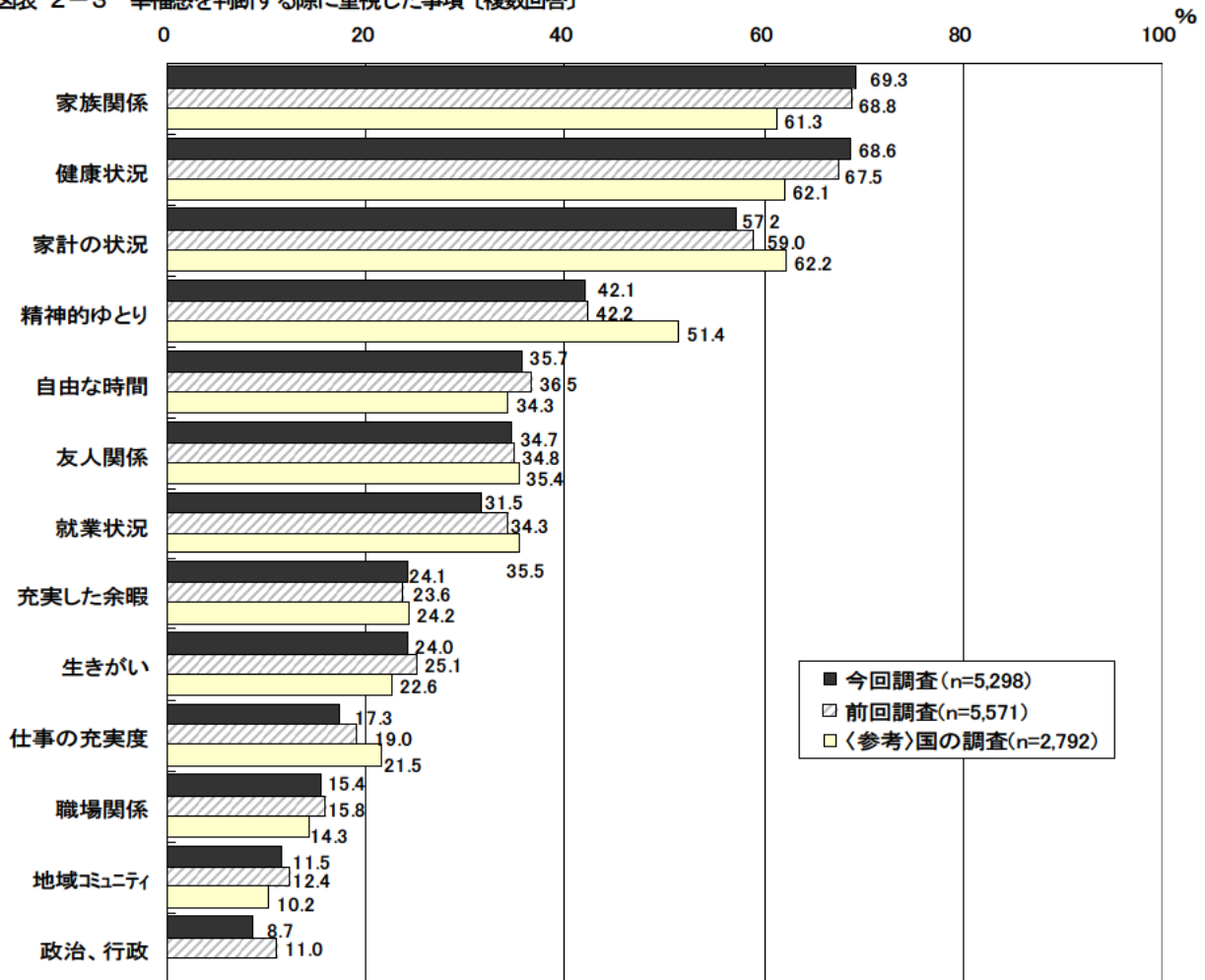
※継続(第1回調査においても質問しています)

幸福感を判断する際に重視した事項について質問したところ、「家族関係」が69.3%と最も高く、次いで「健康状況」(68.6%)、「家計の状況(所得・消費)」(57.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「生きがい」(前回：8位、今回：9位)と「充実した余暇」(前回：9位、今回：8位)で順位の入れ替わりが見られたものの、特に大きな変化はみられません。

なお、国の調査との比較では、「家族関係」は県の今回調査の方が8.0ポイント高く、「精神的なゆとり」は国の調査の方が9.3ポイント高くなっています。

図表 2-3 幸福感を判断する際に重視した事項〔複数回答〕



※国の調査(平成23年度国民生活選好度調査)では、「政治、行政」の選択肢はありません。

(3) 幸福感を高める手立て

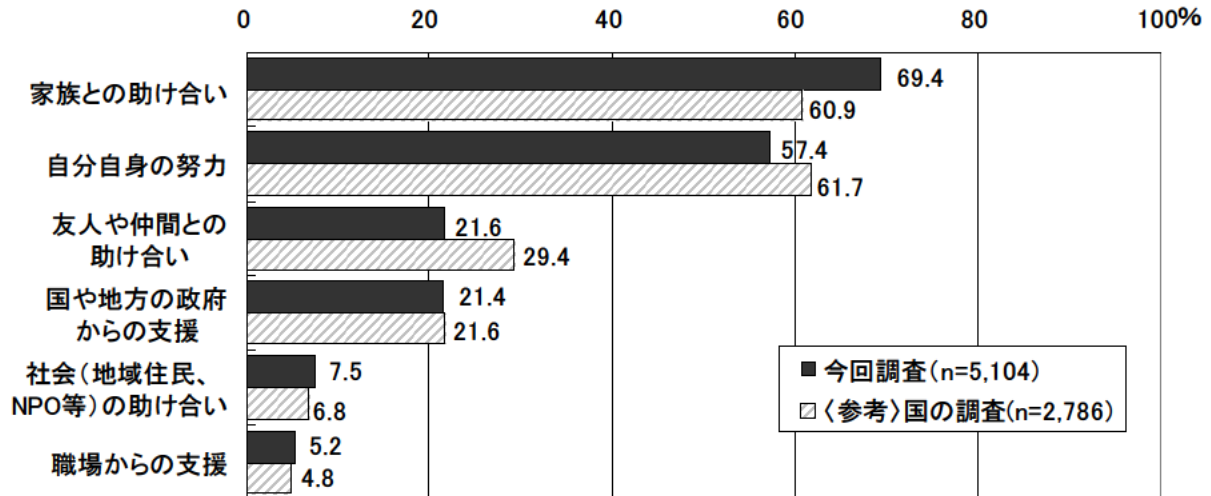
あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

※新規(第1回調査では質問していません)

幸福感を高める手立てについて質問したところ、「家族との助け合い」が69.4%と最も高く、次いで「自分自身の努力」(57.4%) となっています。一方、「社会(地域住民、NPO等)の助け合い」、「職場からの支援」はそれぞれ7.5%、5.2%となっています。

国の調査との比較では、「家族との助け合い」は県の調査の方が8.5ポイント高く、「友人や仲間との助け合い」は国の調査の方が7.8ポイント高くなっています。

図表2-4 幸福感を高める手立て [2つまでの複数回答]



※国の調査・・・平成23年度国民生活選好度調査

### 3 地域や社会の状況についての実感

「地域や社会の状況についての実感」は、平成24年度に策定した「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した16の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

地域や社会の状況について、あなたの実感をおうかがいします。

次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。
  - (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。
  - (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
  - (4) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。
  - (5) 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。
  - (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。
  - (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
  - (8) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。
  - (9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。
  - (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
  - (11) 文化芸術や地域の歴史等について学び親しむことができると感じますか。
  - (12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
  - (13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
  - (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
  - (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
  - (16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。
- ( ) 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。  
1 感じる    2 どちらかといえば感じる  
3 どちらかといえば感じない    4 感じない    9 わからない

継続(第1回調査においても質問しています)

地域や社会の状況についての実感を聞いたところ、「実感している層」の割合は、『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』が86.5%と最も高く、そのうち「感じる」も48.0%と最も高くなっています。次いで『(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』(73.1%)、『(3)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている』(61.4%)となっています。

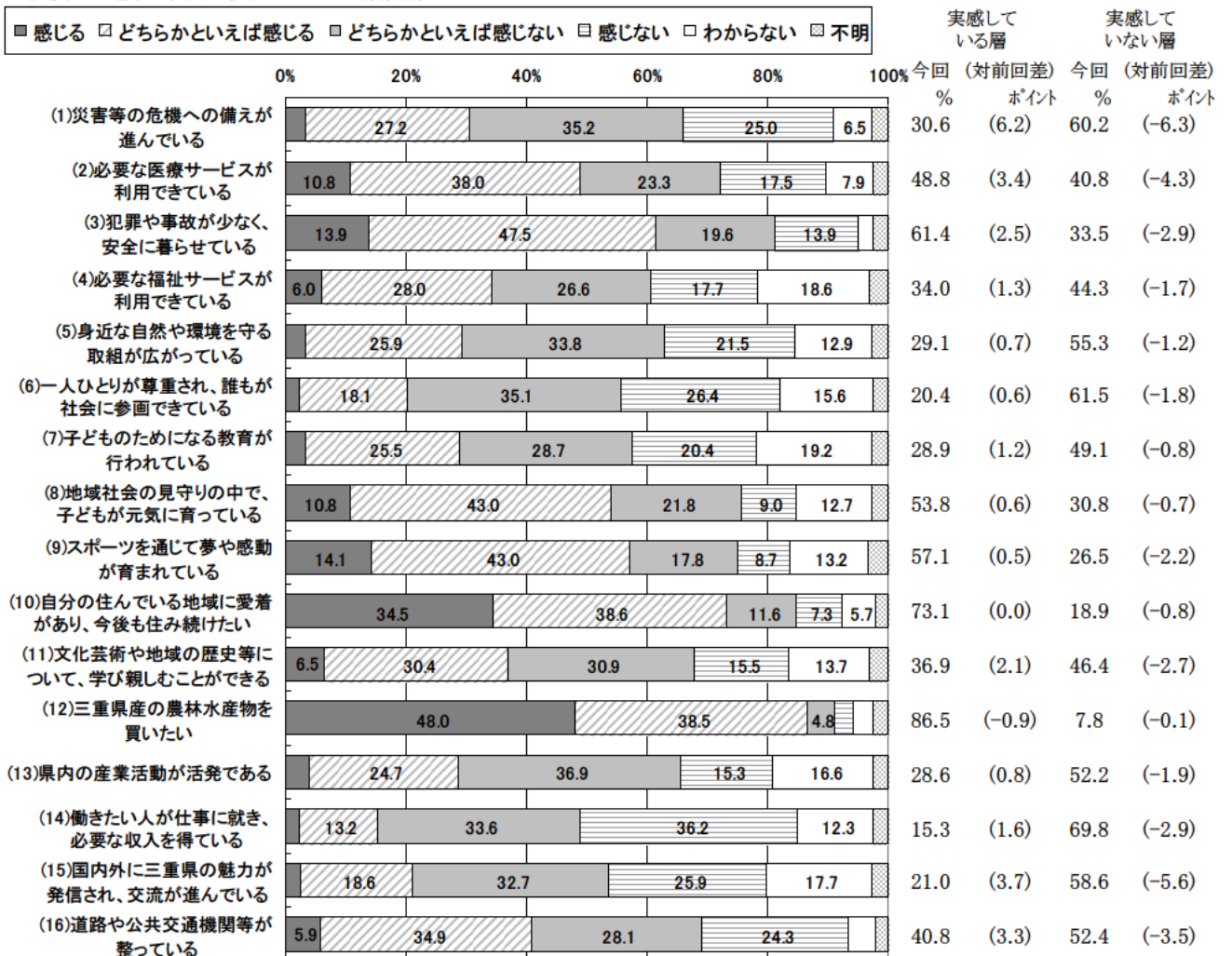
一方、「実感していない層」の割合は『(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が69.8%と最も高く、そのうち「感じない」も36.2%と最も高くなっています。次いで、『(6)一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている』(61.5%)、『(1)災害等の危機への備えが進んでいる』(60.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「実感している層」の割合は『(12)三重県産の農林水産物を買いたい』を除いて、同率か高くなっています。前回調査との差で見ると、『(1)災害等の危機への備えが進んでいる』(+6.2ポイント)、『(15)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』(+3.7ポイント)、『(2)必要な医療サービスが利用できている』(+3.4ポイント)の順に高くなっています。一方、「実感していない層」の割合は16項目全てで低くなっています。

※「実感している層」の割合：「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※「実感していない層」の割合：「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

図表3 地域や社会の状況について（項目別）



(※) 上記の図表では、スペースの関係上、5%未満の数値を非表示としている場合があります。

## 4 家族や精神的なゆとり

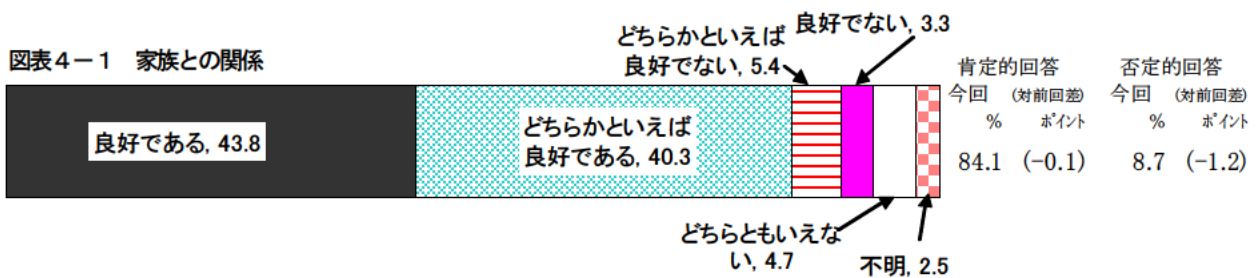
(1) 家族との関係

ご家族との関係は良好ですか。

※継続(第1回調査においても質問しています)

家族との関係について質問したところ、「良好である」と「どちらかといえば良好である」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が84.1%で、「良好でない」と「どちらかといえば良好でない」の割合を合計した「否定的回答」(8.7%)の割合より75.4ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると、「肯定的回答」の割合、「否定的回答」の割合ともに、それぞれ0.1ポイント、1.2ポイント低くなっています。

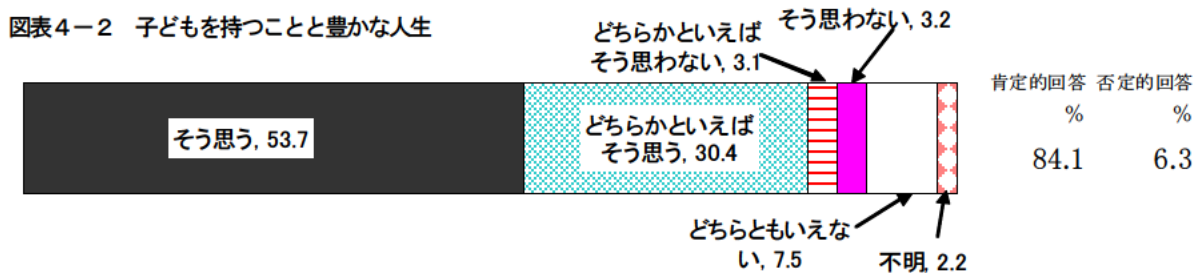


(2) 子どもを持つことと豊かな人生

あなたは、子どもを持つことは豊かな人生につながると思いませんか。

※新規(第1回調査では質問していません)

子どもを持つことは豊かな人生につながると思うか質問したところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が84.1%で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の割合を合計した「否定的回答」の割合(6.3%)より77.8ポイント高くなっています。



(3) 理想の子どもの数

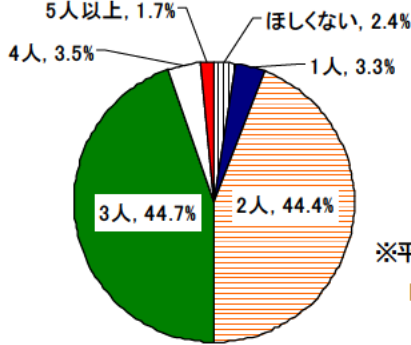


あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。理想の子ども的人数をお答えください。

※新規(第1回調査では質問していません)

理想の子ども数について質問したところ、「3人」の割合が44.7%と最も高く、次いで「2人」が44.4%となっています。平均人数は2.5人となっています。

図表4-3 理想の子ども数



※平均人数の算出にあたっては、「ほしくない」を0人とし、「わからない」、「不明」は計算から除外しました。

報告書 66~68 頁

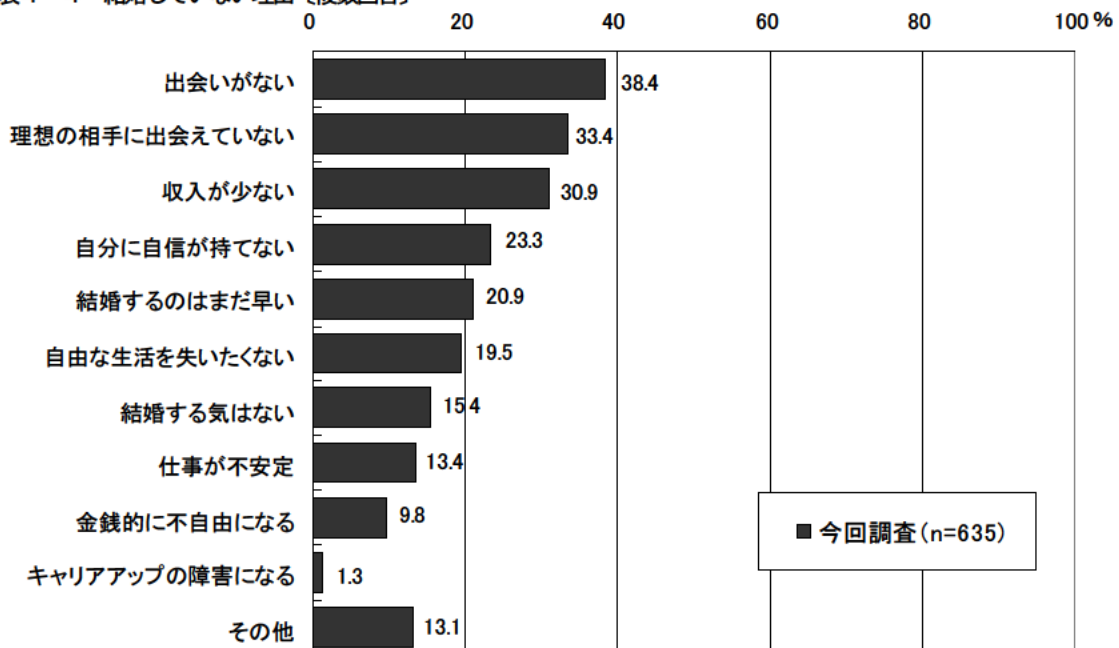
#### (4) 結婚していない理由

(結婚の状況についてお聴きした上で、未婚の方に質問) 結婚していない理由は何ですか。

※新規(第1回調査では質問していません)

未婚の方に結婚していない理由について質問したところ、「出会いがない」が38.4%と最も高く、次いで「理想の相手に出会えていない」(33.4%)、「収入が少ない」(30.9%)となっています。

図表4-4 結婚していない理由 [複数回答]



報告書 69~74 頁

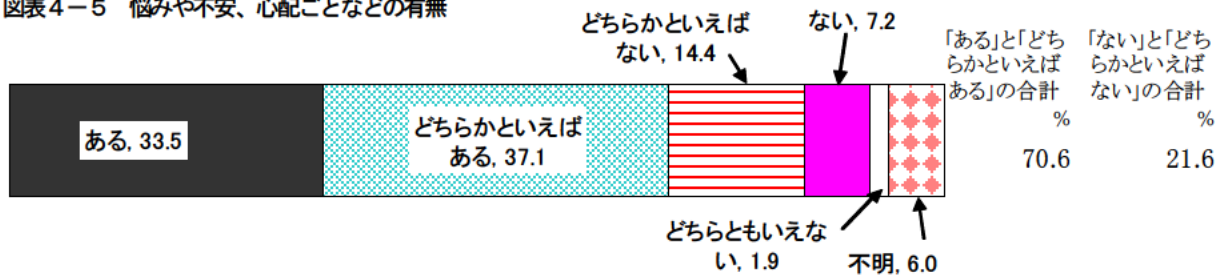
#### (5) 悩みや不安、心配ごとなど

- ・あなたは、悩みや不安、心配ごとなど、精神面で負担となっていることはありますか。
- ・（「ある」、「どちらかといえばある」と答えた方に）その原因としてあてはまるものは何ですか。

※新規(第1回調査では質問していません)

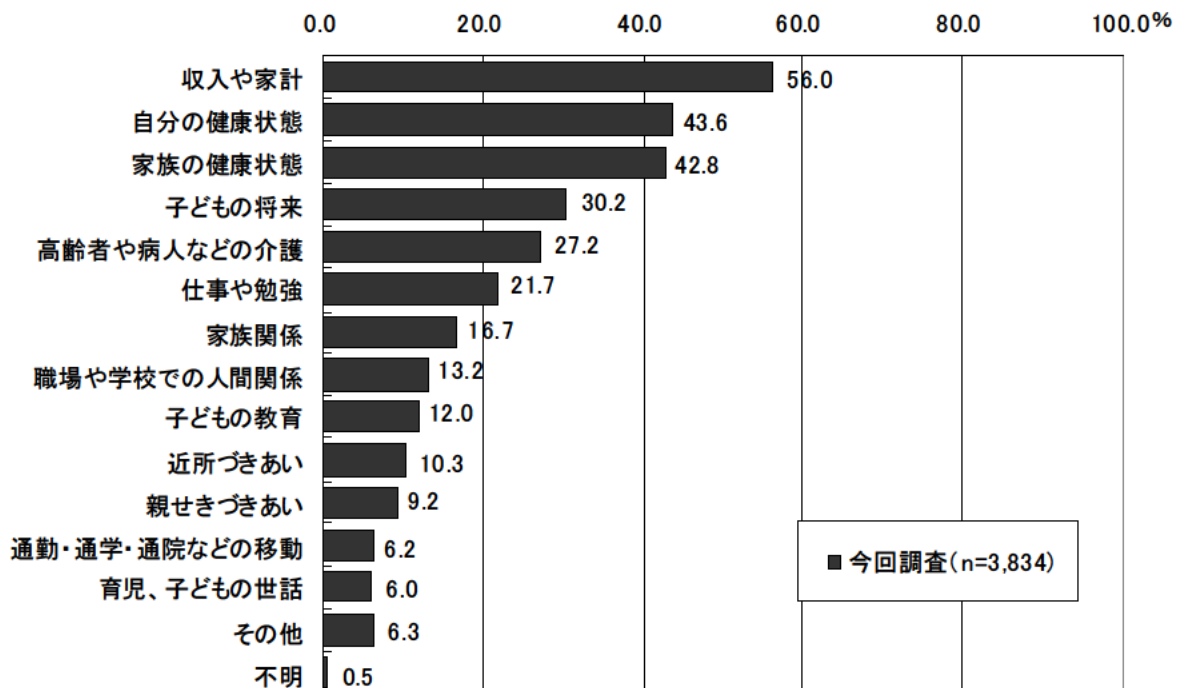
悩みや不安、心配ごとなど、精神面で負担となっていることがあるか質問したところ、「ある」と「どちらかといえばある」を合計した割合が70.6%で、「ない」と「どちらかといえばない」を合計した割合（21.6%）より高くなっています。

図表4-5 悩みや不安、心配ごとなどの有無



「ある」、「どちらかといえばある」と回答した方に対して、悩みや不安、心配ごとなどの原因について質問したところ、「収入や家計」が56.0%と最も高く、次いで「自分の健康状態」(43.6%)、「家族の健康状態」(42.8%)となっています。

図表4-6 悩みや不安、心配ごとなどの原因〔複数回答〕



## 5 地域や社会への参画

報告書 76～77 頁

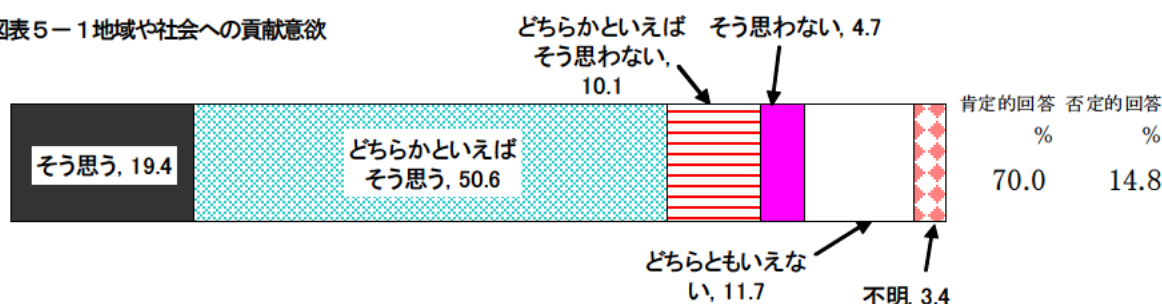
### (1) 地域や社会への貢献意欲

あなたは、お住まいの地域や社会のために役に立ちたいと思いますか。

※新規(第1回調査では質問していません)

地域や社会のための役に立ちたいと思うか質問したところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した「肯定的回答」の割合が70.0%で、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計した「否定的回答」の割合(14.8%)より55.2ポイント高くなっています。

図表5-1 地域や社会への貢献意欲



報告書 78～83 頁

### (2) ご近所づきあい

あなたのご近所づきあいについておききします。次のア、イ、ウにあてはまるご近所の方の人数をお答えください。

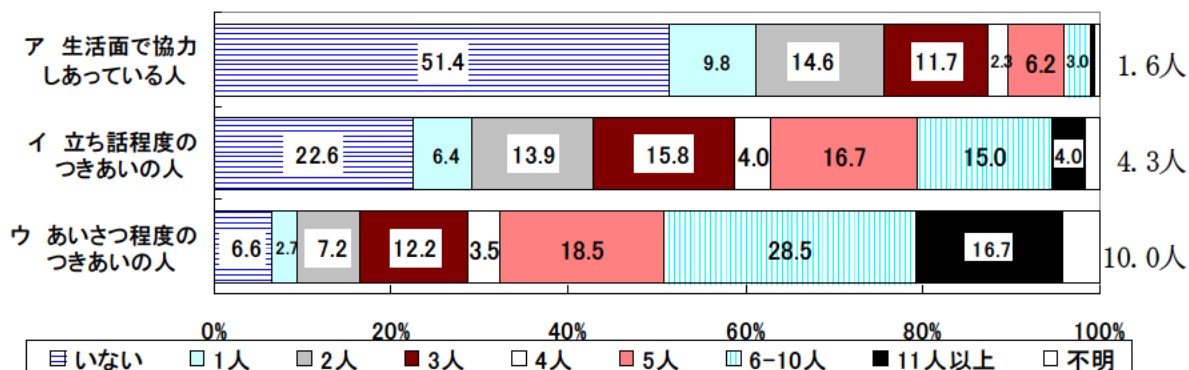
- ア 生活面で協力しあっている人
- イ 立ち話や情報交換をする程度のつきあいの人
- ウ あいさつ程度の最小限のつきあいの人

※新規(第1回調査では質問していません)

つきあいの程度別にご近所の方の人数を質問したところ、平均人数は、『ア 生活面で協力しあっている人』は1.6人、『イ 立ち話や情報交換をする程度のつきあいの人』が4.3人、『ウ あいさつ程度の最小限のつきあいの人』が10.0人となっています。

図表5-2 ご近所づきあい

平均人数



(3) 地域活動への参加の度合い

あなたの地域における活動についておききします。あなたは現在、次のような活動に参加されていますか。アからエの活動の参加の度合い（「ほぼ毎日」、「週に2～3日程度」、「週に1日程度」、「月に1日程度」、「年に数回程度」、「参加していない」）について、それぞれ近いものに○をつけてください。

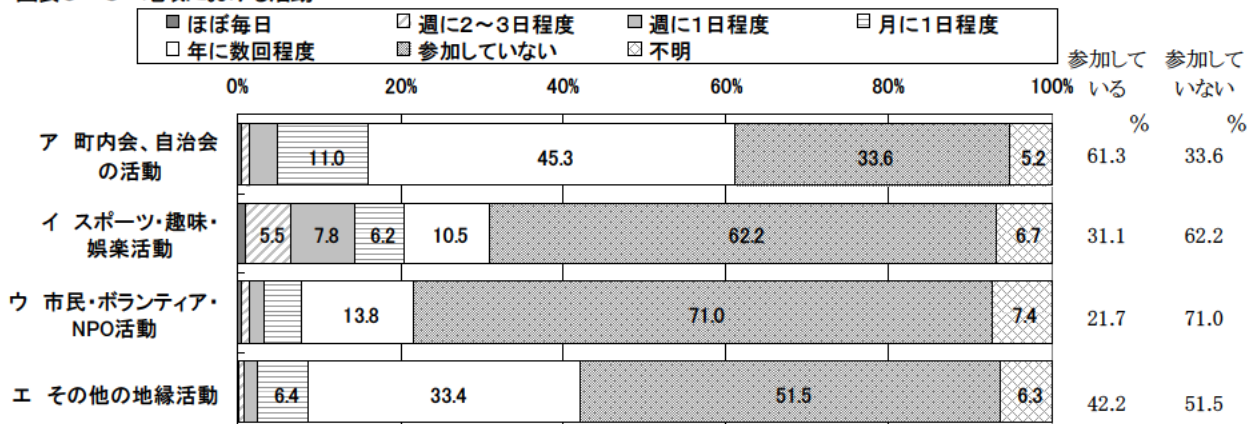
- ア 町内会、自治会の活動
- イ スポーツ・趣味・娯楽活動
- ウ 市民活動・ボランティア活動・NPO活動
- エ その他の地縁活動

※新規(第1回調査では質問していません)

地域活動への参加の度合いについて質問したところ、「ほぼ毎日」、「週に2～3日程度」、「週に1日程度」「月に1日程度」、「年に数回程度」を合わせた「参加している」の割合は、『ア 町内会、自治会の活動』が、61.3%と最も高く、次いで『エ その他の地縁活動』となっています。

どの活動区分においても、「年に数回程度」の割合が一番高くなっています。

図表5-3 地域における活動

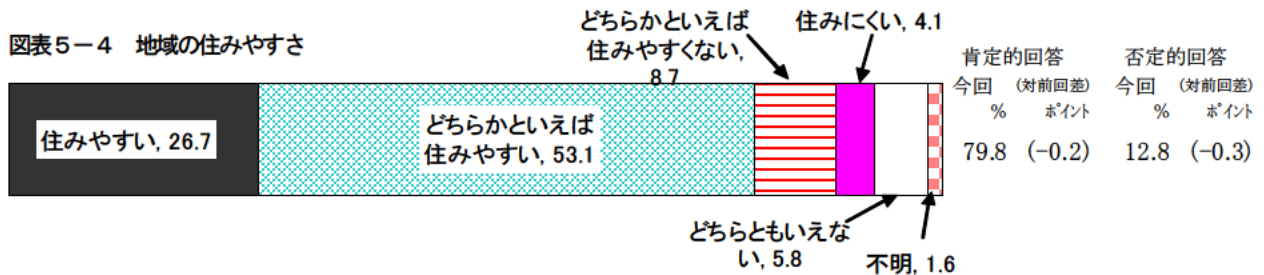


(4) 地域の住みやすさ

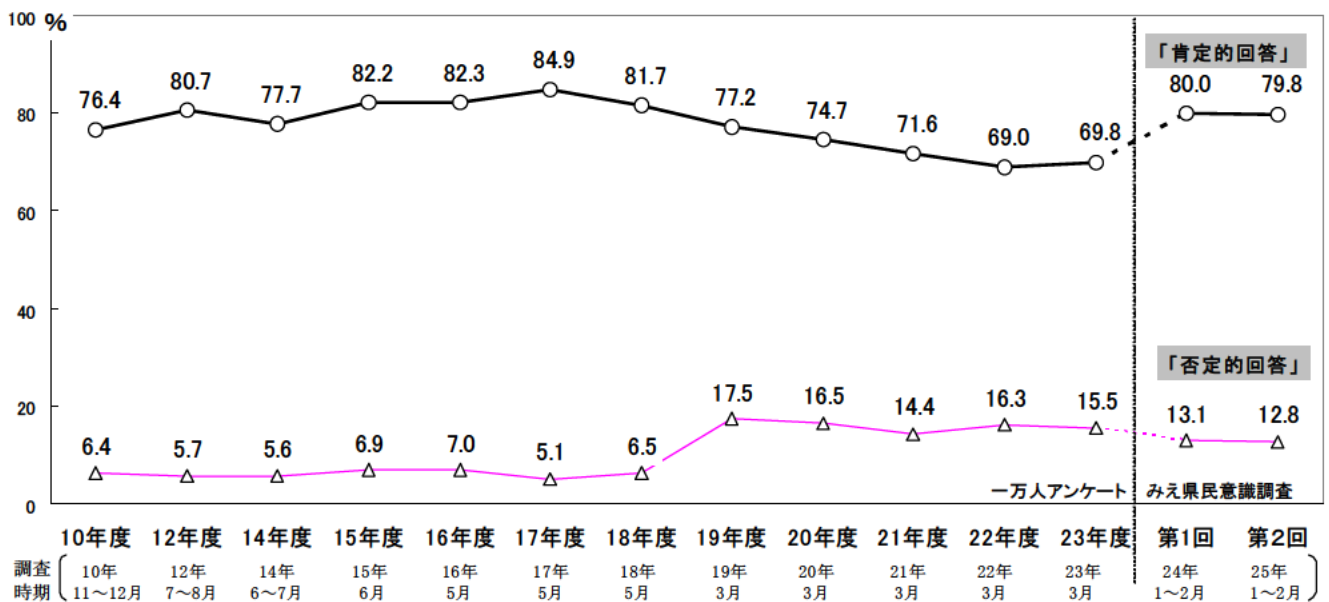
あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

※継続(第1回調査及び23年度までの一万人アンケートで質問しています)

お住まいの地域が住みやすいか質問したところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が79.8%で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」の割合を合計した「否定的回答」の割合(12.8%)より67.0ポイント高くなっています。



図表5-5 (参考) 一万人アンケート(23年度まで)とみえ県民意識調査の「地域の住みやすさ」の推移



※一万人アンケートにおける「肯定的回答」…「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計したもの。

※一万人アンケートにおける「否定的回答」…「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計したもの。

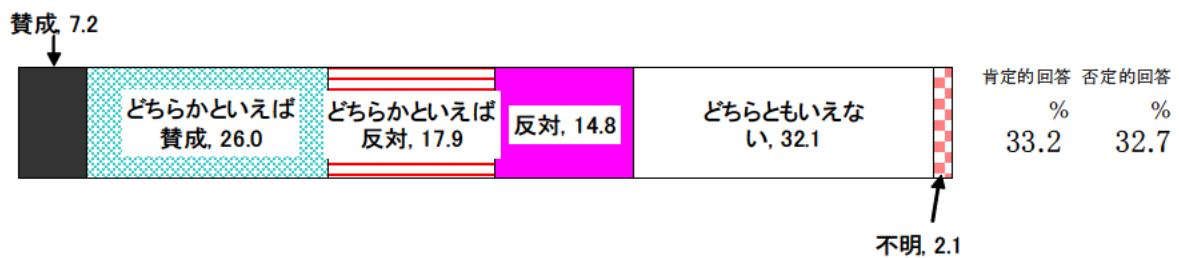
(5) 男女の役割分担意識

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

※新規(第1回調査では質問していません)

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思うか質問したところ、「賛成」と「どちらかといえば賛成」の割合を合計した「肯定的回答」の割合が33.2%で、「反対」と「どちらかといえば反対」の割合を合計した「否定的回答」の割合(32.7%)よりわずかに高くなっています。また「どちらともいえない」の割合も32.1%とほぼ同率となっています。

図表5-6 男女の役割分担意識



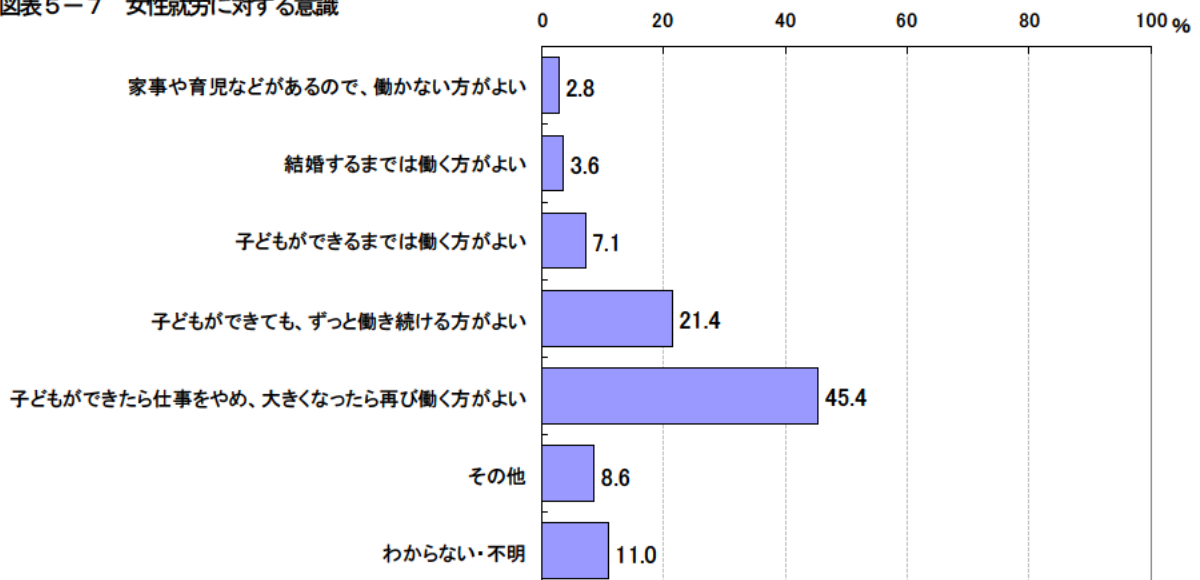
(6) 女性就労に対する考え方

女性が働く(収入のある仕事をする)ことについて、あなたはどのように思いますか。

※新規(第1回調査では質問していません)

女性が働くことについてどう思うか質問したところ、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び働くほうがよい」が45.4%と最も高く、次いで「子どもができて、ずっと働き続けるほうがよい」(21.4%)となっています。

図表5-7 女性就労に対する意識



(7) 家事や育児、介護の時間

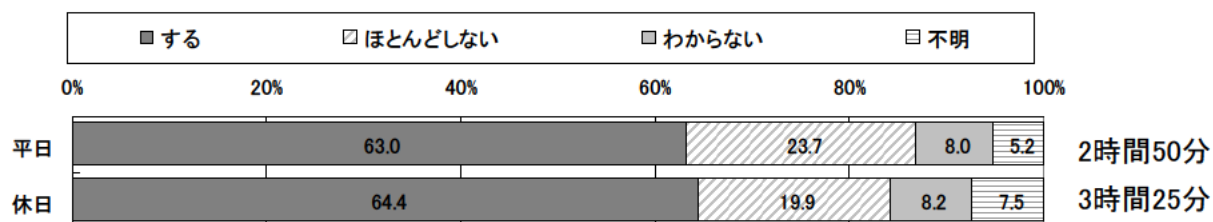
あなたは1日の中で、家事（炊事、洗たく、そうじなど）や育児・子どもの世話、介護などにどのくらい時間をかけていますか。平日と休日に分けてお答えください。

※新規(第1回調査では質問していません)

家事や育児、介護の時間について質問したところ、平均時間は平日で2時間50分、休日は3時間25分となっています。

なお、「する」「しない」の割合で見ると、平日は「する」の割合が63.0%、「ほとんどしない」の割合が23.7%で、休日は「する」の割合が64.4%、「ほとんどしない」の割合が19.9%となっています。

図表5-8 家事や育児、介護の時間



## 6 家計や仕事のこと

報告書 105～110 頁

### (1) 特に負担を感じている支出

- ・日常生活の支出の中で、特に負担を感じている支出はありますか。
- ・(あると答えた方に) 特に負担を感じている支出についてあてはまるものすべてに○をつけてください。

※新規(第1回調査では質問していません)

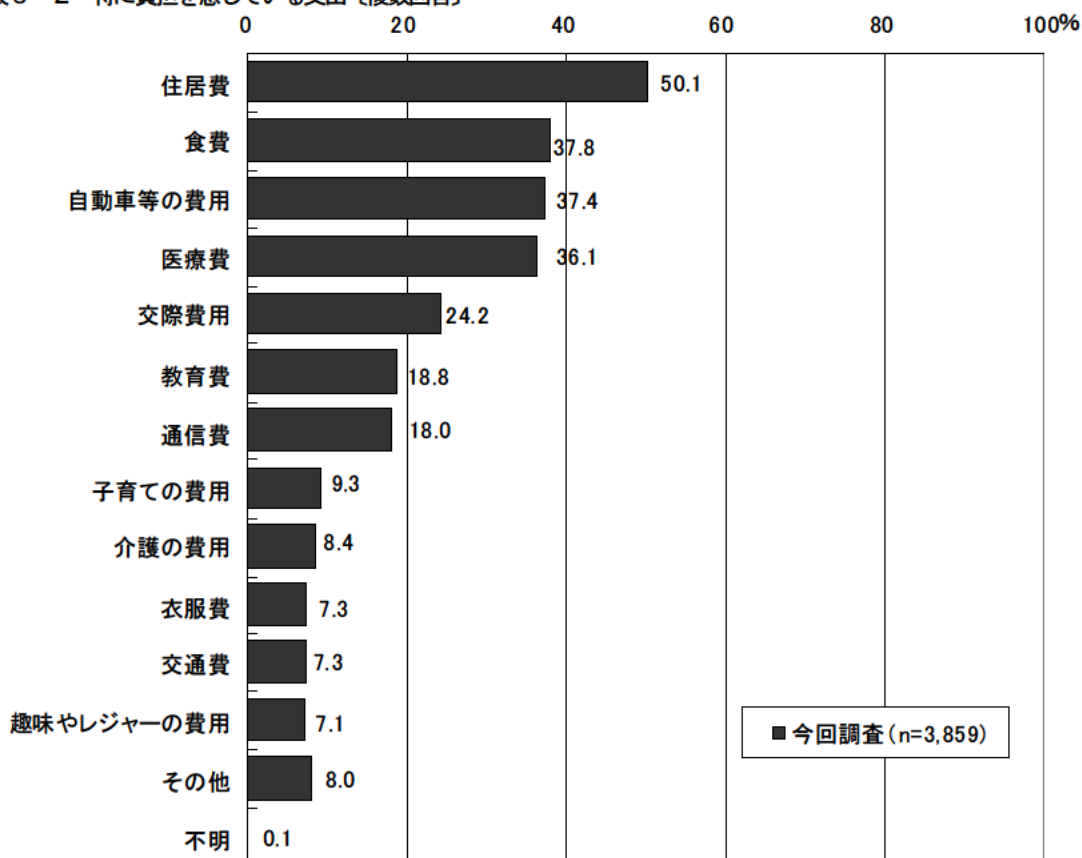
日常生活の支出の中で特に負担を感じている支出があるか質問したところ、「ある」の割合が71.0%で、「ない」の割合(17.0%)より54.0ポイント高くなっています。

図表6-1 特に負担を感じている支出の有無



特に負担を感じている支出が「ある」と回答した方に対して、特に負担を感じている支出の内容を質問したところ、「住居費」が50.1%と最も高く、次いで「食費」(37.8%)、「自動車やオートバイ等に関する費用」(37.4%)、「医療費」(36.1%)となっています。

図表6-2 特に負担を感じている支出〔複数回答〕





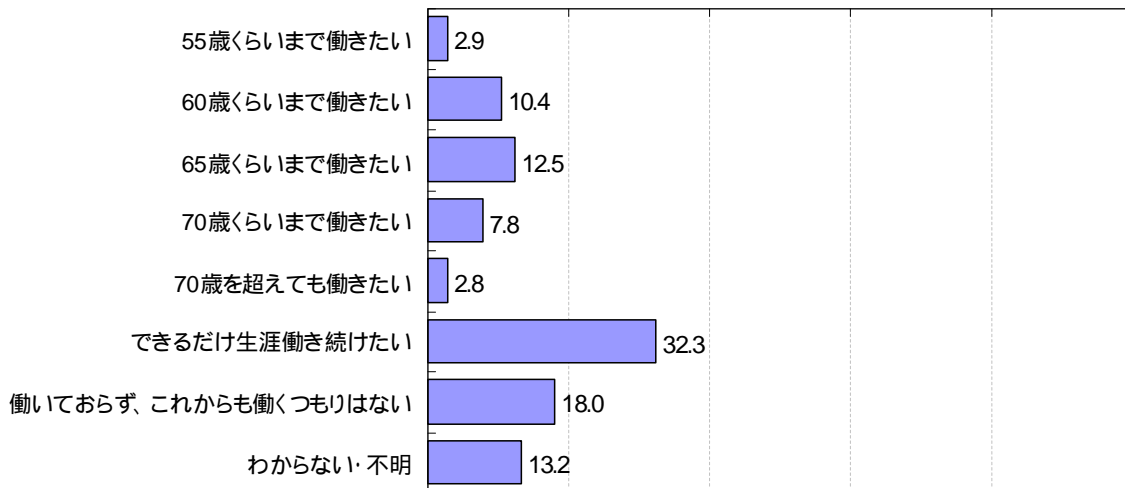
(2) 何歳まで働きたいか(就労意欲)

・あなたは何歳くらいまで働きたい(収入のある仕事をしたい)とお考えですか。  
 ・(「( )歳くらいまで働きたい」、「できるだけ生涯働きたい」の方に) そう考える理由は何ですか。

新規(第1回調査では質問していません)

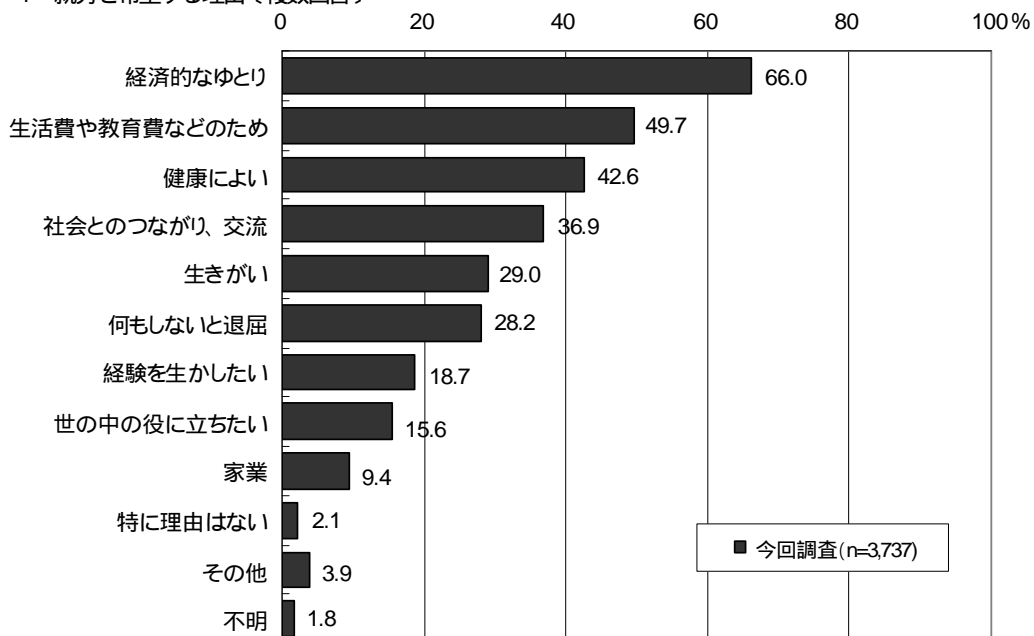
何歳くらいまで働きたい(収入のある仕事をしたい)が質問したところ、「できるだけ生涯働きたい」が32.3%と最も高く、次いで「今、働いておらず、今後も働くつもりはない」(18.0%)、「65歳くらいまで働きたい」(12.5%)となっています。

図表6-3 何歳まで働きたいか(就労意欲) 0 20 40 60 80 100%



「( )歳くらいまで働きたい」または、「できるだけ生涯働きたい」と回答した方に、働きたい理由を質問したところ、「経済的なゆとりがほしい」が66.0%と最も高く、次いで「生活費や教育費などをまかなう必要がある」(49.7%)、「健康によい」(42.6%)、「社会とのつながり、交流がほしい」(36.9%)となっています。

図表6-4 就労を希望する理由〔複数回答〕



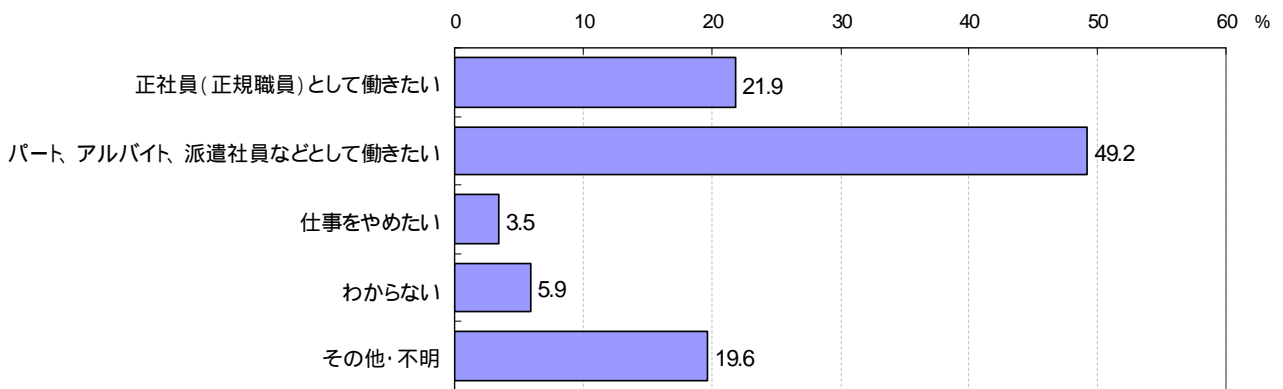
(3) パート、アルバイト、派遣社員の方が希望する働き方

・(パート、アルバイト、派遣社員などの方に)あなたは、今後、どのように働きたいと考えていますか。  
 ・(正社員として働きたいと答えた方に)正社員(正規職員)として働きたいと考える理由は何ですか。

新規(第1回調査では質問していません)

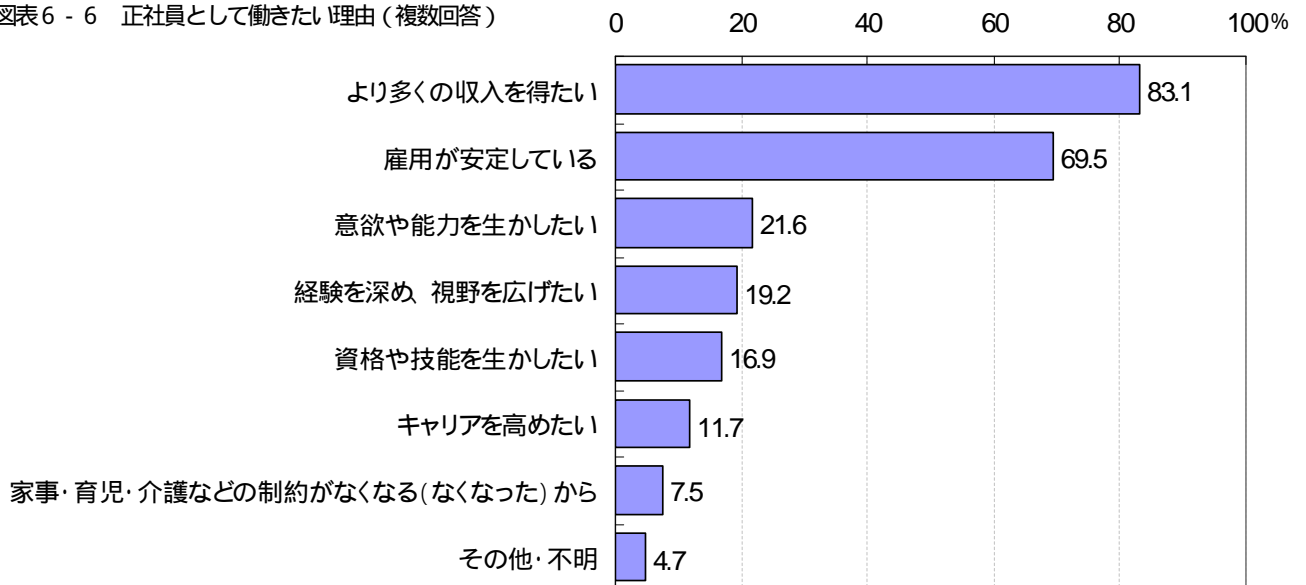
パート、アルバイト、派遣社員などの方に、今後、どのように働きたいか質問したところ、「パート、アルバイト、派遣社員などとして働きたい」(49.2%)が最も高く、次いで「正社員(正規職員)として働きたい」(21.9%)となっています。

図表6-5 パート、アルバイト、派遣社員などの方が希望する働き方



「正社員(正規職員)として働きたい」と回答した方に対して、正社員(正規職員)として働きたいと考える理由を質問したところ、「より多くの収入を得たい」が83.1%と最も高く、次いで「雇用が安定している」(69.5%)となっています。

図表6-6 正社員として働きたい理由(複数回答)



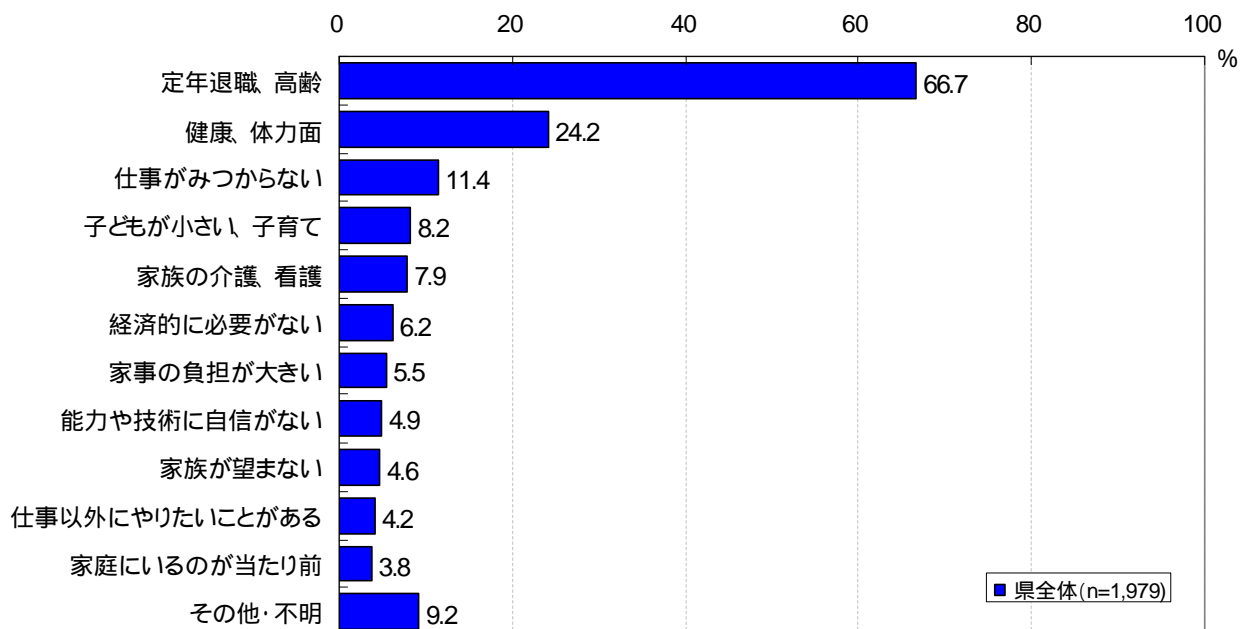
(4) 働いていない(収入のある仕事をしていない)理由

(専業主婦・主夫、無職の方に)働いていない(収入のある仕事をしていない)理由は何ですか。

新規(第1回調査では質問していません)

専業主婦・主夫、無職の方に、働いていない(収入のある仕事をしていない)理由を質問したところ、「定年退職、高齢」が66.7%と最も高く、次いで「健康、体力面」(24.2%)となっています。

図表6-7 働いていない(収入のある仕事をしていない)理由〔複数回答〕



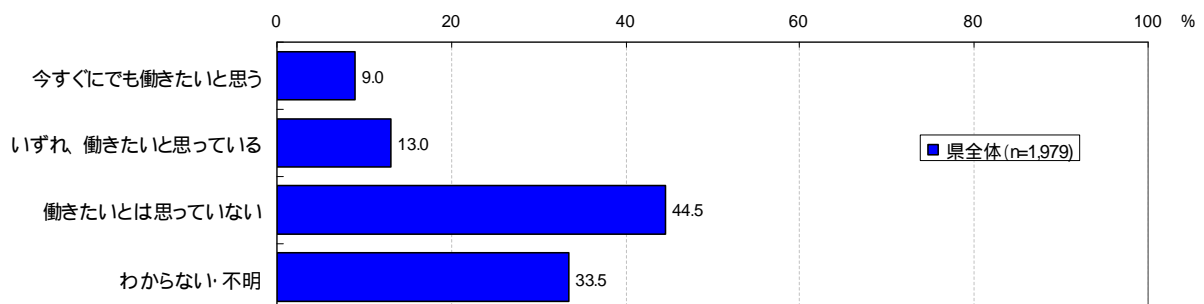
## (5) 専業主婦・主夫、無職の方の就労意欲

(専業主婦・主夫、無職の方に)働きたい(収入のある仕事をしたい)と思っていますか。

新規(第1回調査では質問していません)

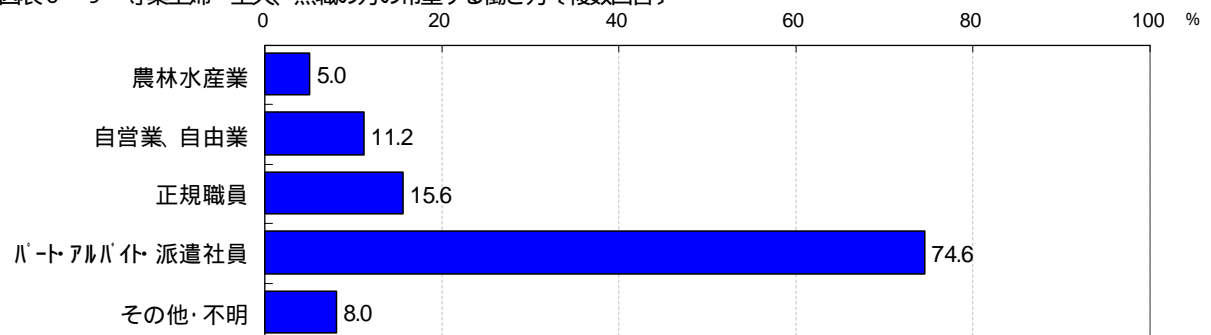
専業主婦・主夫、無職の方に、働きたい(収入のある仕事をしたい)と思っているかを質問したところ「働きたいとは思っていない」が44.5%となっており、「今すぐにも働きたいと思っている」と「いずれ、働きたいと思っている」の割合を合計した割合(22.0%)より22.5ポイント高くなっています。

図表6-8 専業主婦・主夫、無職の方の就労意欲



「今すぐにも働きたいと思っている」または「いずれ、働きたいと思っている」と回答した方に対して、どのように働きたいと考えているか質問したところ、「パート・アルバイト・派遣社員など」が74.6%と最も高く、次いで「企業、役所、団体などの正規職員」(15.6%)、「自営業、自由業」(11.2%)となっています。

図表6-9 専業主婦・主夫、無職の方の希望する働き方〔複数回答〕



## その他

- ・詳細を記載した第2回みえ県民意識調査の報告書は、県庁や各県庁舎(地域防災総合事務所、地域活性化局)に配置するとともに、県ホームページでもご覧いただけます。

[URL](http://www.pref.mie.lg.jp/SENSOMU/HP/mieishiki/) <http://www.pref.mie.lg.jp/SENSOMU/HP/mieishiki/> (「県民意識トップ」で検索)

- ・今後、集計データをもとに戦略企画部において詳細な分析を行い、平成25年夏頃までに研究レポートをまとめ、公表する予定です。